

# 自治会の活動も熱心に

1921年、府立第十三中学校として創立し、48年に豊中高校になった。数学や英語などの課題研究に取り組み文理学科と普通科の2コースで、生徒数は4月1日現在で男性535人、女性543人。進学校として知られ、国公



立大学には現役の3割が進み、有名私大にも多数の生徒が合格している。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され、理科研究にも力を入れている。クラブ活動も盛んで、1946年創部のアメリカンフットボール部は、高校では国内最古。校内には「高校アメリカン・フットボール発祥の地」の記念碑がある。部員約100人の吹奏楽部も全国レベルの実力を持つ。リベラルな校風から自治会(生徒会)の活動も熱心で、周辺の各高校との交流を進めている。



卒業生に元防衛相の森本敏氏や元官房長官の藤村修氏、朝日放送の橋詰優子アナウンサーがいる。

## 府立豊中高校

# 交流と奉仕活動と



## 「志学」リーダー育成目指し

# まな

# ビバ!

教育/2014

「光合成って分かる?」  
豊中市立新田南小学校の理科室で、先生役をする豊中高校生物研究部の副部長、熊谷隼さん(2年)がヒイラギモクセイの葉を手に、集まった児童に語りかけた。

「葉っぱには、光合成でできた養分や水を送る葉脈と呼ばれる管があります」。そう言い、歯ブラシで葉肉をこすり落とすと、脈が浮き出てきた。見守っていた子どもたちから「うわー」と驚きの声が上がった。

この日は、土曜日を利用した出前授業があり、同小の保護者らで運営する「地域子ども教室」から依頼を受けた生物研究部の部員12人が、児童約50人に葉脈の標本づくりなどを教えた。事前に葉を水酸化ナトリウム液に浸して葉肉

小学生に葉脈が浮き出た葉っぱを見せる豊中高校生物研究部の生徒(豊中市立新田南小)

が長さ215センチの薙刀(なぎなた)を手に稽古に励んでいる。競技には、防具をつけて打ち合う試合と、型の美しさを競う演習がある。新入部員は、足さばきや構えなどの基本動作から身につけ、腕を磨く。谷本志織さん(1年)は「見学で先輩たちのきりっとした姿を見て入部した。練習は厳しいが、頑張ってる」と話している。



## 気合の一振り なぎなた部

(豊中市)



大橋絵美子部長(2年)は「なぎなたは奥が深く、姿勢も良くなる。8月にある全国大会への出場を目指して、みんなで頑張りたい」と張り切っている。

をもち、葉脈だけが残るように準備して臨んだ。

児童とのコミュニケーションの取り方を学ぶのも目的の一つ。熊谷さんは「子どもたちには、うさぎやうまぐさ(うま)の草、僕たちも勉強になるのか、僕たちの水野晃希さん(2年)は「理科好きが増えたい」と話した。

「志学」と呼ばれるボランティア活動の一環で、国際社会で活躍できるリーダーの育成を目的に、2012年度から全校で取り組む。志学担当の中井一彦首席(59)は、「新たな体験ができて勉強になると、生徒たちもがいを感じている」と話す。

活動内容は部活ごとに決まっており、昨年度は、野球部が地域の清掃ボランティアに参加。吹奏楽部が福祉施設でコンサートを開き、水泳部は豊中市での成人式の横断幕を作した。

部活に所属していない生徒も、自分で何をするかを探してきたり、学校が紹介したりして、何らかの活動に取り組む。中には、東日本大震災の被災地でボランティア活動をしてきた生徒もいたという。活動終了後、2年生はリポートを提出することになった。

下川清一校長(58)は「活動を通して異なる世代の人たちと交流することで、人間の幅が広がる。しなやかで心折れない精神力を身につけてもらいたい」と話している。

(吉村治彦)